



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「ここからからだの飢餓」に応える働きをしています。

フィリピン台風支援の募金協力を

12 月にフィリピンを襲った、超大型台風の被災者の緊急支援を継続しています。ぜひご支援ください。募金は、郵便振替またはウェブサイトからのクレジット決済で、その際は「**フィリピン台風**」とご指定ください。

海外で活動を目指す人のために ハンガーゼロ・ファシリテーション・トレーニング

世界の現状を知る絶好の機会です。
期間: 2013 年 3 月 18 日(月)~ 22 日(金)
会場: 千葉県印西市内野
東京基督教大学 (TCU)
費用: 29,000 円 (テキスト代込み)
定員: 12 名
申し込み・お問い合わせ: 大阪事務所

ウガンダ里子訪問ツアー参加者募集

期間: 2013 年 8 月 23 日(金)~ 30 日(金)
費用: 298,000 円
定員: 10 名
活動地、ナマスンビ、キョガ、ミソンバの 3 地域を訪問し、各地域で開催される「自立記念セレモニー」に参加予定。お問い合わせは、大阪・世界里親会まで。

感謝をあらわす贈り物は フェアトレードチョコで!

(株)キングダムビジネスでは、2 月 7 日までのご注文に、6 種類の中から好きな味のチョコ 2 個と携帯ストラップのセットを 1,000 円 (送料別 200 円) で、お届けします。数量限定ですのでお早めどうぞ。TEL & FAX 072 (940) 6814 ウェブサイトからも注文できます。https://www.kbwin-win.org/



ハンガーゼロ・サポーター大募集中!

今すぐ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター (世界里親会) になりたいので説明書 (申込書) を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ JIFH (日本国際飢餓対策機構) サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1 円 500 円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

フリガナ 住所: _____

(電話) _____

▼申込日: _____ 年 月 日▼

FAX・072-920-2155

東日本震災復興支援
今後も継続

東日本大震災からまもなく 2 年をむかえます。当機構は支援者様から寄せられた募金を用いて、様々な困難の中で復興に歩んでおられる人々の応援を続けています。これからも東北事務局を通じて、物心両面の応援を続けさせていただきます。

今年 3 月には、韓国のビューティフルマインド財団の音楽使節団を再び迎えて 2 度目の「希望のコンサート」を仙台国際センターで開催します。今回は、同財団が支援している身体的なハンディをもつ

学生たちも来仙して、クラシックの演奏なども行われます。また、3 月上旬には森祐理親善大使も現地をおとすれ、励ましのコンサートを行います。(詳細はウェブサイトでお知らせ)。

これからも東北の人々の復興を支えるために、引き続き募金のご協力をお願いいたします。



ハンガーゼロ・サポーター 2561 円。ぜひあなたのお知り合いにもお知らせください。



日本国際飢餓対策機構

2013 No.271

2

飢餓対策 News



南米ボリビアの活動地アサワニの子どもたち (4・5 面に小西駐在員の報告)

先日、悲しい写真に出会いました。それは、内戦が続くシリアでの一枚で、「この最も小さき者の一人」に仕えてゆく私自身の決意を新たにさせるものでした。そこには、空爆で亡くなった幼い息子を抱きしめ、最後の別れの口づけをする父親の姿がありました。同じ子を持つ親としてたまらない思いです。

2011 年チュニジアで端を発したジャスミン革命の影響を受けたアラブ諸国で、「アラブの春」と言われる民主化を求める市民運動が一党独裁に喘ぐシリアでも起こり、2013 年 1 月 3 日国連の報告によると政府軍によって 6 万人も

の民主化を求める市民が被害されました。この子もその被害者の一人です。愛する者と、このような別れを強いられる人々の悲しみや痛みが一体どれだけこの世界にはあるのでしょうか。

昨年、私たちの同労者にコンゴ民主共和国出身の青年が加えられました。今、大学院で学んでいます。彼の祖国もまた現在に至るまで悲劇的な歴史をたどってきています。地政学的にも政情不安な国々に囲まれているだけではなく、ダイヤモンド、金、銅、コバルト、タンタルなどレアメタルと呼ばれる鉱物資源を豊富に有するコンゴは、それゆえに工業先進国などの資源争奪による紛争が後を絶ちません。この紛争によって 20 年の間に、500 万人も

の人々が虐殺されたという報告があります。その中の多くの女性はレイプの後命を奪われています。特に女性に対する年齢を問わない組織的な性的虐待は、人としての尊厳や人権などが全く無視されたあまりにもむごい現実であります。

あまり報道されることのない世界の事実、に、どれだけの人々の悲しみや苦しみ、また恐怖と絶望の叫びがあるのでしょうか。それも、小さなうめき、意識しなければ決して聞こえてこない呻き、聞こえようとする意志が存在しなければ沈黙を強いられるうめき。私たちの生きる世界には、飢餓と貧困と闘う人々、内戦や紛争による犠牲者、絶え間ない暴力に怯える人々など、いったいどれだけのうめきがあるのでしょうか。私はそれを聞いているか。私はそれを聴こうと意識しているか。小さな存在、小さな団体であることを言い訳にして手をこまねいてはならない。そしてそのような人々と共に生きることを選び続けているか。

あの写真によってそれを自らに、日本国際飢餓対策機構に、強く問いかけています。「イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。神は彼らの嘆きを聞かれ〜神はイスラエル人をご覧になった」出エジプト記 2 章 23 節〜25 節

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

■発行者	岩橋竜介	大阪	〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1 TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
■発行所	一般財団法人 日本国際飢餓対策機構	東京	〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室 TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
	Webサイトアドレス http://www.jifh.org/ eメールアドレス general@jifh.org フェイスブック https://www.facebook.com/hungerzero	愛知	〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
■募金方法	※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで	広島	〒730-0036 広島市中区袋町 4-8 CLC ブックス 2F TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
	身近に便利になりました	沖縄	〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 コリ香ハウス 201 号 TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540
	●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構 ●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ	東北	〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所 (八尾市、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力を下さっています)。

大久保愛美さんの シーブケアセンター ボランティア日記



その1

2012年10月からケニアのナイロビ郊外のスラムに住む子どもたちのための学校「シーブケアセンター」で、ボランティアとして活動している大久保愛美さんのレポートからお届けします。

当機構を通してこの地域の子どもたち100名が日本の里親さんの里子として受け入れられ、現在さらに100名の子どもたちが里親さんを待っています。



厳しい境遇の中でも感謝の祈りを忘れない子どもたち

子どもたちとゴミ集めに奮闘

●2012年11月25日

今週は土曜日に子どもたちと一緒に学校の周りの掃除をしました。シーブケア学校がある地域は、みんな何でも道に捨てるのでゴミが散乱しています。道の脇に流れている溝は、ゴミが混ざって強烈な臭いがします。子どもたち

が私たちを見て「ありがとう」「ハレルヤ！」と声をかけてくれたり、「外国人がいる」と言って地域の子もたちが私のところに集まってきて一緒にゴミを集めてくれたり、地域の人たちに仕える良い時となり感謝でした。

卒業試験のために神様に祈ろう！

●12月9日（シーブケア学校には高校までクラスがあります）

今週は卒業試験があり、試験前日の月曜日に卒業生たちが集まって祈りと分かち合いの時を持ちました。一人ずつコメントをしたのですが、「今まで一緒に過ごした仲間のことをいつも覚えて祈ろう！高校に行ったら誘惑が増えるけど純潔を守ろう！8年後にもう一度集まり、みんなでケニアを変えていこう！」と一人ひとりが力強く語り、最後にクラスリーダーの男の子が、明日からの試験に向けて「試験の前には必ず祈ろう！

わからない問題があってもあきらめずにまず祈ろう！神様が共にいてくれることを絶対に忘れてはいけない」とみんなを励ましていました。

試験当日もテストが始まる一時間前にみんなで円陣を組んで祈り、一日の試験が終わるとまた集まって祈っていました。子どもたちが神様を愛しゆだねて祈り、また感謝の祈りをささげることを大切に生活している姿に本当に教えられる毎日です。



子どもたちにとっての一食は生きることに直結

パキスタン・カラーシャ族 女子教育支援現地レポート

当機構は2012年8月よりパキスタンの少数民族、カラーシャ族の女子の教育支援を行っているガールズ・ホステルの支援を始めました。現地パートナーは、フルゴスペル・アッセンブリー教会ペシャワールのラザロス牧師ご夫妻です。



女子学生が安心して学べるように応援

パキスタン北部・アフガニスタンに近い山岳地帯の辺境で暮らしている、カラーシャ族の人たちは、独自の宗教を持ち、半農半牧で生計をたてている人が多く、高等教育を受けた人がまだまだ少ない地域です。それでも時代の流れの中で、教育を受ける子どもたちが増えてきています。そのこと自体は喜ばしいことなのですが、女の子の教育に関して、カラーシャ族独特の問題があります。

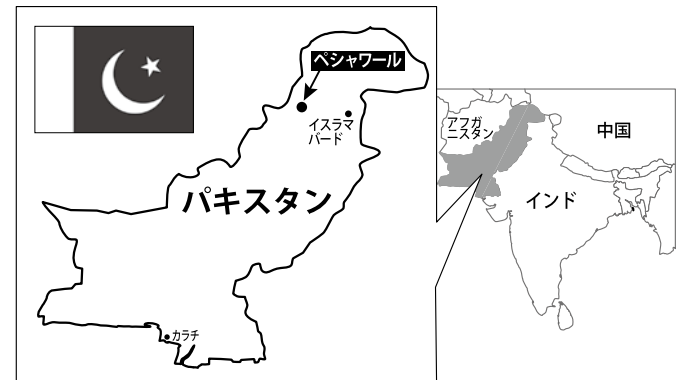
ひとつはカラーシャの村の雰囲気として、女性が高等教育を受けることに対する理解がまだまだ低いことです。もう一つは9割以上がイスラム教徒であるパキスタンにおいて、独自の宗教をもつカラーシャの人々に対する、イスラム教徒からの強要があることです。

ある十代後半の女の子は、イ

スラム教徒の男性に結婚を申し込まれ、つきまとわれ、学校に行きにくくなってしまったそうです。イスラム教徒の男性が異教徒の女性と結婚すると、「結婚によってイスラムに新しい人を加えた」ということで、良いこととみなされます。このために、誘拐と脅迫による強制結婚すらあり、社会問題の一つにもなっています。（ちなみに、イスラム教徒の女性が異教徒に嫁ぐことは、非常に悪いこととされています。）

10人の子どもたちが共同生活

このような少女たちがペシャワールで安心して教育を受けることができるように、ガールズ・ホステルを始めたラザロス牧師夫妻が住まいと環境を提供、現在10名の子どもたちが一緒に生活しながら学校に通っています。カラーシャの女の子たちの自立をめぐる様々なしがらみを振り切って、ペ



シャワールで学ぶことができていた彼女たちは幸運であるといえます。また、彼女たちの周囲に、進歩的な考えをもつ大人の存在があるのも感謝です。

自立にむけての取り組みも

実はこのホステルがスタートしてから、6年ほどはイギリスの民間団体が支援していました。しかし、その団体の経済的な問題から突然支援が打ち切られたのです。JIFHはその後を引き受けて支援することになりました。海外支援に頼り切ることの弊害も経験したこのガールズ・ホステルには、現地の人たちからの温かい献金が少しずつ与えられてきています。現地のみなさんと話し合いつつ、カラーシャの女の子たちの自立をめざして支えて行けるよう願っています。



スタートして6年が経過してホステルへの理解が広がりつつある

2013.2
No.271
3

●チャイルドサポーターになりませんか！ 毎月 4,000 円で一人の里子を応援することができます。世界里親会まで。

●パキスタンでのこの働きを応援することができます。募金を送られる際は「パキスタンのために」と明記ください。



新しい地域での世界里親会の活動が始まって1年がたちました。昨年末までにリオカイネで164人、アサワニで128人計292人の子どもたち全員に、チャイルドサポーター（里親様）が与えられましたことを心から感謝申し上げます！今回はアサワニ地区でこれまでに行われた活動の中から主なものをご報告します。

●報告●
ポリビア駐在：小西小百合

3つの言語を使い分け

アサワニ地区センター：標高3,250mの高地に位置し、冬や雨季はとても寒くなります。ここは都市コチャバンバから140km、車で3時間半のところにあります。ここでは3つの言語でコミュニケーションをとっています。例えばウアンカパンパ村の里子、エメリアナ・ライメちゃん（7歳）は、この地域の母語のアイマラ語とコチャバンバ州全

域で用いられているケチュア語を話し、学校の先生とは小学校入学後から習うスペイン語で話します。



エメリアナ・ライメちゃん



高校で全住民の健康調査

大きな行事としては、昨年9月7日～9日の3日間アサワニ高校を会場にお借りし、コチャバンバのキリスト教会（バプテスト教会）からの全面的な協力を得て、医療・社会奉仕と子ども集会を実施しました。2人のお医者さんによる一般医療診察、医薬品とビタミン剤の贈呈・注射、中古衣料・靴等の配布、日中の子ども集会（ピエロの劇や人形劇を通して神様と両親に従うことを教える）、教育をテーマにした夜の映画会、日曜朝の教会学校などです。

医療診察は大人と子ども合わせて217人が受診しましたが、この地域の人々の健康状態は私が想像していたよりもずっと劣悪で驚きました。

お医者さんによると「年配の多くの方々に尿路感染症がある。大人の約60%に前立腺炎の症状がみられる。子どもたちには様々な感染症がみられ、地域の人々全員に歯科と保健衛生の指導が必要。特にシラミが多い」とのことでした。

週末や学校が休みの時、子どもたちは早朝から羊の放牧に出かけたり、ジャガイモ畑などに手伝いに行ったりして体中汗とほこりで



古着と靴を受け取る子どもたち



同時に行われた子ども集会では、劇など楽しい教育プログラムを実施



▲アサワニ高校での医療診察と運営に協力いただいた教会の皆さん

勉強を続けるよう子どもを励ます

南米
ポリビア
アサワニ &
リオカイネ

新たに150人の子どもたちをサポートします！

3月から
サポーター
募集開始

真っ黒になりますが、この地域では身体を清潔にする習慣が根付いていません。また幼児は別として、女性は子どものころから全員長髪という文化でありながら、未だ洗髪する習慣を持たない人々が多いのです。私が彼女たちを抱きしめると、頭髪からぷ〜ん…と何ともいいようのない臭いがします。また髪の毛が脂でギトギト…という子が多いと感じました。これでは感染症、皮膚病が多いのもうすけすけです。そこで診察当日、シャンプーも用意して洗髪指導を行いました。

またこの地域には保健診療所もなく、交通事情がとても悪いため、病気にかかった時には徒歩3時間近くかけて他の地域の診療所まで行かなくてはなりません。このように、とても厳しい生活状況の中で懸命に生きている子どもたちを見ると、生活を改善するお手伝いを続けていきたい、と強く思いました。

高校卒業生に励ましの言葉

12月6日には、アサワニ高校の卒業式がありました。私は後援者

代表に指名され、喜んでお引き受けしました。今年の卒業生は19名。私は「君たち一人ひとり、特に女子の皆さんは“卒業後すぐに結婚”と考えるだけではなく、神様から与えられている素晴らしい能力を埋もらせないよう、自分が興味のあること、得意なことは何なのかをよく考えてください。そしてぜひ卒業後それを追求して必



▲記念品を手渡ししながら卒業生を励ます小西

要な専門学校や大学に進み、しっかり勉強して地域に役立つ人になってほしい。神様を信頼し、絶えず導きを祈り求めながらこれからの人生を歩んでいってください」と激励しました。そして私個人から、一人一人の名前とメッセージを記した聖書と、スポーツバッグを卒業記念として贈りました。

新たな里子支援をスタートへ

現在の課題は現地スタッフの定着です。昨年は様々な事情でアサワニ、リオカイネの各地区の担当

スタッフの入れ替わりが激しく、思うように活動が進められない面がありました。まさに「産みの苦しみ」の1年でもあったのです。今年はふさわしいスタッフが与えられ、彼らが腰を据え、心をつにして共に働いていくことができると願っています。そしてこの2地域の子どもたちが全人的に健全に育ち、恵まれた人生を歩むお手伝いをしたいと心から願っています。

このような地域の現状を踏まえ、今後さらに里子として支援をする子どもたちを増やすことを計画しています。皆様のご支援をよろしくお願い致します！

世界里親会の目指すもの

子どもたちにとって高校卒業は夢であり、地域住民の大きな喜びです。しかし経済的な貧しさから、学校を中退して街に出稼ぎに行くこどもたちも多くいます。この地域でも、穀物の生産量は低く、都市部への出稼ぎや移住で地域を離れる人も少なくありません。世界里親会では地域の人々が責任を持って子どもたちを育み、成長を助けていくという本来の姿に移行していきように働きかけています。ぜひご支援ください。



平林佐知子さん
(大阪市)

〈その1〉

日本国際飢餓対策機構の活動を知ったのは、中学生の時でした。教会でもらったJIFHの緑色のパンフレットに『里親になって子どもたちを幸せにしてあげてください』とありました。その言葉が心に残り、いつか子どもたちを幸せにしてあげる里親になれるように、と神様にお祈りをしていました。

ベンガル文字の手紙に感動

神様はこの思いと祈りを消されることなく私を大人にしてくださって、バングラデシュのスライ・アリ君10歳の里親にしてくださいました。初めて受け取ったアリ君からの躍るようなグルグルしたベンガル文字に感動し、何度も何度も眺めていました。バングラデシュと自分がつながったこの手紙をみんなに見せて自慢したくなったことを覚えています。ニュースでバングラデシュという



スライ・アリ君㊦㊧共

言葉が聞こえるとテレビの前に飛んでいくようになりました。そして神様にアリ君と家族が守られるようにしてくださいと祈っていました。年に1回届くアリ君の写真と並べて飾り、毎回その1枚の写真の表情からいろんなことを想像していましたが、私からアリ君になかなか手紙を書かず、手紙をもらえなくてさみしいですというアリ君のメッセージをもらってしまい、あせって手紙を送ったこともあり、里親としてははずかしいことをしていました。写真のアリくんはいつもちょっぴり陰い顔をしているので、ある手紙に笑顔の写真を持っていると書いたら、次に笑顔の写真がきて嬉しくてしかたがありませんでした。

手紙をもっと書かないと…と

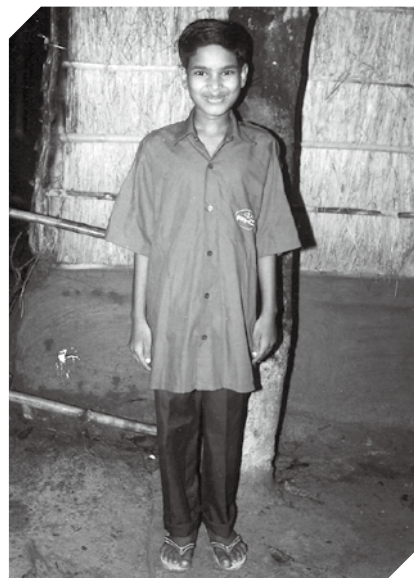
アリ君から笑顔の写
真が届き、嬉しくてしかたが
ありませんでした

思っているうちに、アリ君は16歳になり、地元で働いて家族の生活を支えるとの理由で支援が中止になりました。もっと手紙を頻繁に送っていたら、学習意欲が続いていたかもしれないととても後悔をしました。

私のために祈ってくれる

自分のいい加減さに落ち込みましたが、里親をやめることは思わず、同じバングラデシュのリトン・リシ・ダス君5歳の里親になりました。ダス君もベンガル文字で手紙をくれました。年齢が上がるにつれて、試験のためにまた家族のためにお祈りをしてくださいと具体的に書いてくるようになりまし。そしていつも最後には私のことを気遣い、神様の祝福があなたにありますようにとあるのです。自分の方が祈られて支えられているようでした。

(次号に続く)



リトン・リシ・ダス君



愛知県名古屋市に本社を置き、71の事業所を持つトヨタカローラ愛豊(株)では、18年にわたり世界食料デー名古屋大会への協力を通して、世界の飢餓・貧困に苦しむ方々を支援して下さっています。代表取締役社長の寺町一憲さんと取締役新車部長の吉元信男さんから話を伺いました。



新車店舗で世界食料デー協賛バザー 「地域の皆さんと共に協力の輪を広げたい」

トヨタカローラ愛豊 の取り組み

Q協力を始めてくださったきっかけは？

世界食料デー名古屋大会事務局長の三輪さんが、以前当社で勤務しておられたつながりから、協力の呼び掛けがあり、それに応答する形で始まりました。1994年に開催された第1回世界食料デー名古屋大会では、プログラムに広告を掲載することで協賛参加をしました。第2回からは、当時の担当部長が大会趣旨に賛同し、全社を挙げて協賛バザーに取り組み始めました。それ以来、新車店舗の秋のイベントと連動したバザーが恒例化し、社員やお客様にも定着するようになっていきました。

Qバザーについて詳しく教えてください

当社で毎年10月に実施している各店舗オリジナルの大規模イベントでは、店長とのじゃんけん大



WFD名古屋大会事務局長三輪さん㊦から感謝状を受け取る寺町社長㊦と吉元取締役

●貧困と飢餓に苦しむ人々のために「わたしから始める、世界が変わる」ぜひ、あなたの取り組みをお知らせください

新車店舗で行われるWFD協賛バザー



地球型募金箱を設置しての募金も行われます



会やビンゴ大会、手品ショーなどを企画して、ご家族でお店にお立ち寄り頂けるように工夫しており、その中で新車店舗46拠点統一の全社企画として、国連が制定した世界の食料問題について考える“世界食料デー”(10月16日)への協賛バザーを行っています。

バザー実施に際し、物品は社員が持ち寄るだけでなく、お客様からご提供頂くこともあり、その売上は全額、日本国際飢餓対策機構を通して世界の困難の中で生きる方々へ寄付させて頂いております。また、バザーのコーナーには食料デーのチラシや協賛はがきも置いて、訪れる皆さんに飢餓・貧困問題に関心をお持ちいただけるように心掛けています。この十数年の間に地域に定着し、“今年も

行きますからね”と声をかけて下さるお客様もいらっしゃるんですよ。

Q今後については

世界では10億人に近い人々、7人に1人が飢餓状態にあり、苦しんでいる方がおられるということは感覚的には分かっているけれど、豊かな日本では身の回りにそのような状況があまり無いため、普段から実感を深めていくことが難しいと感じています。先ず“知る”ことから始まると思いますので、貴機構に更に積極的に情報発信をしていただくことを期待します。当社としても、私たちの出来ることからスタートし、毎年一步一步積み重ねてこまできました。これからも長く続けて地域に根付いた協力の輪が広がっていくことを願っています。